

2021 年度

国 語

最初に、以下の注意事項をよく読んでください。

1. 問題冊子は監督者の指示があるまでは開いてはいけません。
2. 監督者の指示にしたがって、解答用紙に受験番号と氏名を記入してください。問題冊子は受験番号のみを記入してください。
3. 試験問題の内容に関する質問には答えられません。それ以外の用事があるときは手をあげてください。
4. 受験中気分が悪くなったときは、監督者に申し出てください。
5. 解答用紙は持ち帰らないでください。
6. 漢字で書くべきところは漢字で書いてください。

受 験 番 号	
------------------	--

*解答に字数制限がある場合は、句読点なども字数として数えます。

【一】 次のそれぞれの問いに答えなさい。

問一 ①～⑥の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 会社のギョウセキが上がる。
- ② ケイカイな音楽が流れる。
- ③ 県外とのオウライをひかえる。
- ④ バスのウンチンをはらう。
- ⑤ 友人のキョウチュウを察する。
- ⑥ 後片付けをします。

問二 次の熟語と同じ成り立ちのものを一つ選び、記号で答えなさい。

「因果」

- ア、絵画
- イ、投票
- ウ、開閉
- エ、再会

問三 次の中から意味が似ていることを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア、重宝
- イ、保守
- ウ、使命
- エ、困難
- オ、任務

問四 次の□に同じ漢字を入れて、四字熟語を完成させなさい。

□体 □命

問五 次の()に共通して入る語を漢字一字で答えなさい。

() を売る。

水と ()。

火に () を注ぐ。

【二】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

朝の教室は、子どもたちが持つてきた自由研究や自由工作でいっぱいだ。大きな模造紙に旅行記を書いてきた子や、手作りの椅子を持つてきた子もいる。前田香奈枝は布の手提げバッグを作っていたし、斜め後ろの増井智帆は粘土で作ったお菓子バスケット、松丸颯介は富士登山の体験記だ。

陽太は自分のくす玉を取り出して、紐で持つて、ぶらぶらと振り子のように振ってみた。なんでそんなことをしたのだろう。

おまけに陽太はつぶやいている。

「これ、作るの、大変だったな。けっこう、時間かかったな」

しばらく誰からも声がかからなかったから、陽太はもう一度、今度は少し声を大きくした。

「おれの、自由工作、けっこう、時間がかかったな」

すると、ようやく「なに、それ」と、隣の席の前田香奈枝が話しかけてくれた。

誰かに話しかけられるのを待つていたくせに、陽太は黙る。

「へー、すごいじゃん、武市。紙でボール作ったんだ」

陽太の手の中から、**1**くす玉が抜かれていて、それはすでに、前田の手の中にあった。

「かわいい」

と言いながら、前田がぼんぼんと、くす玉を弾ませる。

陽太は焦った。

前田がぼんぼんとくす玉を放った。前田の友達の飯田麻耶が受け止める。

「投げて、投げて」

前田が面白がるように言い、飯田は戸惑っている。

「だめ、それ」

陽太は言った。

その声は、たしかに前田に聞こえたはずだけれど、前田は陽太のほうを見なかった。

「まやまや！ こっち！」

パスを促すように、飯田に向かって手をあげる。

飯田が前田の声に押されたように、ふっと手首を持ち上げた。

「だめだ！」

② 陽太は大きな声を出した。

「だめだ！ だめだ！ だめだ！」

陽太は叫びながら飯田に突進した。

だめだ！ だめだ！ だめだ！ だめだ！ だめだ！ だめだ！

背中に誰かの体温を感じ、陽太は X に返った。

机が倒れていた。飯田が泣いていた。先生が、陽太の背に手を添えている。教室が 2 静まり、皆が陽太を見ていた。

いつの間にかくす玉は陽太の手の中にあっただけれど、それはすでに前とはかたちが違った。部品の片側がへにやりと凹んでしまっている。陽太はそのことに気づいて、体が熱く震えだしそうになるのを必死にこらえる。みんなに見られている。みんなの

目が体じゅうに突き刺さる。

「武市さん！ 飯田さんに謝りなさい！」

藤岡先生が、陽太に言った。

「なんだよ、なんだよ」

「武市がまたキレた」

「あいつ、頭おかしいから」

ひそひそ声。陽太は、ごめんなさい、がどうしても出ない。どうしても、言いたくない。

その時、誰かが言った。

「先生、武市くんの言い分も聞いてあげませんか」

陽太を囲む子どもたちの、その奥おくのほうから聞こえたのは、おとなの声だった。

顔を上げた陽太は、その人を見て、自分の心がほろほろと崩れそうになるのを感じた。^④

麦わらさんだった。今日は麦わら帽子をかぶってはいないけど、よく着ている縞しま々の服が同じだし、顔も同じだから、陽太はその人が麦わらさんだと分かった。このクラスの誰かのお母さんだったのだ。

陽太と目が合うと、麦わらさんは小さく頷うなずいた。そして、まるで自分が陽太のお母さんであるかのような、責任感に満ちた目で、「ふたりともに、言い分があるんじゃないかと……」

と、ラジオ体操で陽太を褒ほめてくれた時と同じ、優しい声で言ってくれた。

おとなに言われたら、先生もさすがに無視はできないと見え、

「そうですけど……じゃあ、武市さん。いったい、どうして。何があったのか、説明して下さい」

と陽太に訊きいてくれたのだけど、「あれ」がくるから、陽太はやっぱり、すぐには答えられない。麦わらさんの信しん頼頼にこたえたいのに、くちびるが震えて、息をちゃんと出せない。そんな自分がふがいないし、喋しゃべれないどころか、くしゃつとなつたくす玉が目に入るたびに、涙が出そうになってしまう。陽太は

3 くちびるの裏を噛かんだ。男が泣くのは恥はずかしいこと。それは、何度も何度も、何度も言われてきたことだ。陽太が泣くたび父さんは、おまえの育て方が悪かった、と母さんを怒ど鳴なった。

「じゃあ武市くん、怒おこってしまった理由を、おばさんに教えて」

麦わらさんが陽太の前まで進み出てきて、目を見て問うた。

陽太は、ひゅうつと喉のどが鳴るような音をたてて息を吸ってから、教室のみんなに言うのではなく、麦わらさんだけに、説明を

する。

「糸が、取れると、だから、これは常識なんだけど、かたむすびしたけど、糸は弱いから、取れると、ぜんぶだめになるって、分かりきってるのに。それなのに……」

ばらばらになった言葉を必死でかき集め、どうにかつなぎ合わせてゆく。

「でもね、武市さん」陽太をさえぎり、先生が言った。「事情はあるのかもしれないけど、どんな場合でも、手を出しちゃだめでしょう」

「でも……」

「でも、じゃないの！ 困ったことや、厭いやなことがあったら、口で言いなさいって、いつも言っているでしょう！」

先生が急に大きな声を出した。

その声は、陽太にだけ言っているのではなく、麦わらさんや、他の子たちにも聞かせようとするかのように、大きな声だった。でも……。

陽太は言葉をのみこんで、うつむいた。絶対にだめだ、泣いたらだめだと思っているのに、止められなくて、涙があふれて、上履うわばきへ、4 落ちた。

「先生」

陽太と飯田を囲む輪の、外側からか細い声が出たのは、その時だった。

尾辻おつし文也ふみやだった。

「なんですか？ 尾辻さん」

「先生……おれ……」苦しそうに、文也が言う。「おれ、見てたけど、飯田さんじゃなくて、誰かが、飯田さんに、武市のくす玉を投げるように言ってた」

「誰かが？」

先生の眉まゆが持ち上がる。

文也の目が苦しそうに、ちらつと前田をとらえるのを、陽太は見たし、他のみんなも見ている。先生は飯田に事情を訊くが、飯田は答えず、うつむいたまま、肩かたを震わせて泣き続ける。周りの子たちが、ちらちらと、前田を見ていることに、先生はもう気づいているはずだ。

「では、いったん終わりにして。飯田さんと武市さんは、二十分休みに先生と話します。はい、じゃあ、みんな席まどに戻って」
先生が言った。

その時、

「香奈枝！」

麦わらさんが急に大きな声で、前田の名前を呼んだ。

「香奈枝。あなたが飯田さんに、武市くんのくす玉を投げるように言ったの？」

「は？ 言っていないし」

前田うそが嘘をついたので、

「言った！」

とっさに、陽太は叫んでいた。

「言った！ 言った！ 言った！」

麦わらさんに分かってもらいたくて正直に言ったのに、^⑤麦わらさんの目に浮うかんだのは、深い悲しみだった。自分の味方をしてくれた麦わらさんが、どうして、こんなに傷ついた顔をするのか、陽太には分からなかった。

教室は静まり返っていた。さっきまでの、キレた陽太をからかうような、ひそひそ話もやんでいた。前田は、これまで見たこともないような、真っ白な顔をしている。

麦わらさんは、陽太の手から、潰つぶれかけたくす玉をそうと取った。

「ごめんね、武市くん。大切なものを。ごめんなさいね」

そう言いながら、麦わらさんは、指先で紙のふちをなぞるように、そうと、そうと、ひとつひとつの百も合の花びらの部分

を伸ばしてゆく。前田の低い舌打ちが、耳元を掠った。ふんわりと花開くように、くす玉のかたちが戻ってゆく。それは素敵な魔法のようで、麦わらさんの指の中で生き返るくす玉を見ていたら、陽太は、⑥しおれていた自分の心も少しずつ水をのみこんで広がってゆくような気がした。

「これ、香奈枝のおばちゃんも作ってただけど、けっこう手間がかかるのよね。武市くんは本当に上手なのね……」

「武市くんは、大学生からも、折り紙の才能あるって言われてるんですよ」

ほのかが、大きな声で言った。

麦わらさんが「まあ」と声をあげた。大学生、と聞いて、少し空気が変わる。ざわめく教室の中で、いつになく注目を集めている陽太は、みんなに「折り紙探検隊」の話をしたいような、大切な宝物を隠しておきたいような、複雑な気分で、泣き笑いになっていて、

「ドラゴンを作る」

と声に出す。

ドラゴンを、あのすごいドラゴンを、いつか作って、みんなに見せる。麗衣斗にも、宝田さんにも前田さんにも、麦わらさんにも、母さんにも。

陽太の心は、さつきくす玉を投げられそうになったことを忘れていて、今はその思いでいっぱいだ。

「ドラゴン？」

麦わらさんが優しく訊き返してくれた時、チャイムが鳴った。

「朝の会を始めますから。皆さん、席についてください！ 今から自由工作を回収します！」

先生が皆に言った。子どもたちが席に戻るざわめきの中、陽太は隣の席の前田の目が真っ赤なことに、気づく。陽太が前田を見つめていると、前田は顔を隠すように、ばたんと机につつぶした。そのまま顔を上げない。

朝の会が始まって前田は動かない。

先生もなぜか前田を注意しない。腫物にさわるように無視している。

その後の休み時間も、前田は動かない。前田の友達が、前田の近くまで来るけれど、こわごわ様子を窺うだけで、誰も前田に話しかけない。いつの間にか、麦わらさんは帰ってしまったようで、教室の後ろに、今日は見張りの大人がいなかった。

陽太は、急に、前田が心配になる。

もうすぐ授業が始まってしまう。

いつも怒っていたり、威張っていたり、弱っているのを見るのは、初めてだった。

「大丈夫？」

勇気を出して、声をかけた。

前田は何も答えない。それどころか、顔の向きをわざと陽太と逆側に向けるようにして、無視を決め込む。

さつき、くす玉を「かわいい」と言ったのに。

かわいいと思ってくれたなら、どうして、制止した陽太をふりきって、飯田に投げさせようとしたのか。陽太には分からない。前田の気持ち分からない。陽太には、分からないことがいっぱいある。あの時は、前田の、分からないさに腹が立って、どうしても許せないと思ったけど、今は、前田が言ってくれた「かわいい」という言葉だけが、溶けなかつた雪みたいに、手のひらにあつた。

「うるさい」

前田が顔を上げて、真っ赤な目をして陽太に言った。

フンツ、と鼻を鳴らす前田は、いつもの怖い前田だった。前田は「はーっ」と、周りに聞こえるような大きな息をひと吐きし、抽斗の中から、バタンツ、バタンツと音をたてて、教科書を取り出していく。

「ほんっと、最低。やってらんない！」

誰にともなく毒づく前田のことが、陽太はやっぱり苦手だったけれど、前田が前田に戻ったことに、なぜだかほっとしていた。

⑦ (朝比奈あすか『君たちは今が世界』(角川書店)より)

問一

1 4

に入ることばとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じものは使えない。)

ア、しんと イ、ぐつと ウ、ぼたんと エ、ひよいと オ、はたと

問二

X

に入ることばを漢字一字で答えなさい。

問三

〰〰線部 A・B の本文における意味として適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

A 「ふがない」

ア、自信がなく、頼たりない

イ、しまりがなく、みつともない

ウ、意い気く地じがなく、情けない

エ、けじめがなく、だらしない

B 「腫物にさわるように」

ア、手に負えない人をしきりになだめるように

イ、気難しい人をこわごわあつかうように

ウ、感情的な人をやりわりたしなめるように

エ、傷ついた人をそつといたわるように

問四

――線部①「陽太はもう一度、今度は少し声を大きくした」、②「陽太は大きな声を出した」とあるが、①と②の陽太の「大きな声」の違いを説明した次の文の (A) (B) に入る適切なことばをそれぞれ十字以内で答えなさい。

①の「大きな声」は (A) (B) ための声であるのに対し、②の声は (A) (B) ための声である。

問五

——線部③「体が熱く震えだしそうになるのを必死にこらえる」とあるが、このときの陽太のようすとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、怒りにまかせて飯田に突進したが、自分がしてしまったことの大きさに気づいて責任を感じている。
- 2、教室が静まりかえる中で一人だけ取り乱してしまい、恥ずかしくていたたまれない気持ちになっている。
- 3、クラスのみんなに悪者だと決めつけられ、誰からも理解してもらえないつらさをがまんしている。
- 4、時間をかけて作った作品がこわされた悔しさや腹立たしさを、なんとかしてしずめようとしている。

問六

——線部④「自分の心がほろほろと崩れそうになるのを感じた」とあるが、それはなぜか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、みんなから責められた時に自分を気にかけてくれる大人が現れ、かたくなだった心がやわらいだから。
- 2、自分の味方をしてくれた大人がこのクラスの誰かの親だと分かり、この上なく心強く感じたから。
- 3、本当はみんなに謝りたいという自分の気持ちに気づいてくれた大人がいて、心の底から安心したから。
- 4、自分の子のように親身に接してくれた大人がいて、この人となら心を通わせられると思ったから。

問七

——線部⑤「麦わらさんの目に浮かんだのは、深い悲しみだった」とあるが、それはなぜか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、自分の娘がくす玉を投げる指示をしたことで、陽太がクラスの中で孤立してしまったから。
- 2、自分の娘がくす玉のこわれる一因をつくり、そのことを最後まで言わずに隠していたから。
- 3、自分の娘がくす玉で遊んだことを、陽太がクラスのみんなに聞こえる声でさわぎたてたから。
- 4、自分の娘がくす玉を勝手に持ち出し、自己中心的な言動を繰り返していたことが分かったから。

問八 — 線部⑥ 「陽太は、しおれていた自分の心も少しづつ水のみこんで広がってゆくような気がした」とあるが、このと

きの陽太のようすとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、麦わらさんにくす玉について話せたことで、初めて自分の気持ちを理解してもらえたような気がした。
- 2、麦わらさんがくす玉を大切にみつかったことで、香奈枝のしたことを許せるような気がした。
- 3、麦わらさんがくす玉を直してくれたことで、自分の心の傷も同時にいやされていくような気がした。
- 4、麦わらさんにくす玉をほめられたことで、冷めきっていた心が温かくなっていくような気がした。

問九 — 線部⑦ 「前田が前田に戻ったことに、なぜだかほっとしていた」とあるが、それはなぜか。その理由を「くから」に

つづくように文中から四十字以内で探し、初めと終わりの五字をぬき出しなさい。

問十 「麦わらさん」の人物像として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、自分の信念にもとづいて行動し、子どもの問題を放っておけない正義感の強い人物。
- 2、自分から子どもと積極的に関わり、子どもと自然に打ち解けられる社交性のある人物。
- 3、子どものおかれた立場を考え、困っている子どもの気持ちに寄りそえる面倒見のよい人物。
- 4、周囲の様子を客観的に判断して、子どもの問題にも冷静に対処できる行動力のある人物。

【三】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

今、時代は大きく変わろうとしている。急速なスピードで進化するAI（人工知能）の存在は、「人間を超えていくのではなか」という一種のおそれを芽生えさせている。少し前まで「人間には勝てない」と言われていた将棋や囲碁でも、あつと言う間にトップ棋士がAIにかなわなくなった。

本当にAIが「人間以上」のものになったとき、僕たち人間の「値打ち」はどこにあるのだろうか。

そう考えると、孫正義のビジネスセンスはすごい。優れたAIの開発に投資する一〇兆円のファンドを立ち上げるといふ。ユ

① ニークなひとつの研究に一〇〇億円規模のお金が注がれば、おもしろいAIができるだろう。

そんな時代にこそ、人間の値打ちが問われてくる。今以上におもしろい人間が出てくるような気がする。早過ぎることはない。今からAIにはできないような生き方を始めればいいのだ。優れたAIがつくらればつくられるほど、やさしく、想定外にあったかく、強く、破壊力のある人間クサイ人間になってやる、と自分に言い聞かせている。

今後一〇年〜二〇年で、事務員や秘書といったオフィスワーカーや、小売店販売員や飲食店接客係、スーパーのレジ打ち係、ビルの管理人、タクシーやトラックの運転手などの職業は、AIも含めた機械に取って代わられていくと言われている。実際、人型ロボットの接客が少しずつ導入され始めている。「人間より気をつかわなくてすむのがいい」と言うお客さんもいるようだ。

② 教育という「人間を育てる」場所にも、インターネットがどんどん進出してきている。アメリカの大学では、ネットを使った遠隔授業ができる大学が人気を集めつつある。キャンパスに通わなくても、世界のどこにいても、パソコンを開けばすぐに一流の授業を受けることができ、費用も従来の大学より安いとあって、学生からは好評のようだ。

ある高校では、ひとりひとりの習熟度に合わせた問題をコンピューターが自動で出題するシステムを導入したところ、生徒の学力が向上したという報告もされている。確かに、コストをかけずに教育格差を【A】する手段としては期待できる。日本でも一部の塾でこうしたシステムが試みられているそうだ。

効率がいいが、こうなると、教育ってなんだろう、と違ってしまふ。そのうち、教室にいるのはロボット先生だけ、子どもたちはパソコンやタブレットで勉強する、ということになるかもしれない。そのとき、人間の先生は「いらぬ」と言われてしまふのだろうか。

興味深いことに、今のところAIは東大に入れないことがわかったのだという。国立情報学研究所が二〇一一年にスタートした「ロボットは東大に入れるか」^{注2}プロジェクトは、東大に合格できるAIの開発を二〇二一年春を目標に進めてきた。センター試験突破^{とっば}については、模試で英国数理（物理）社（日本史、世界史）の五教科のうちほとんどで平均点を上回り、総合偏差値^{へんさち}は五七・一。これは、「MARCH（明治大学、青山学院大学、立教大学、中央大学、法政大学）」「関関同立（関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学）」などの難関私立大にも合格できる実力判定だ。だが、東大二次試験を受けるには点数が足りず、国語と英語のリスニングは平均以下等、東大ロボの意外な苦手分野も明らかになった。

東大ロボの強みは、1な計算力や暗記力。しかし、難しいのは「意味を理解することだ、とプロジェクトのリーダーである新井紀子教授^{あらいのりこ}は言う。問題文の意味を理解できないと解けないタイプの問題については、現在の技術ではブレイクスルー（突破）できない、それがプロジェクト凍結^{とつげ}という結論につながった。

地球にとってのベストは「人間がないこと」

東大ロボが「意味を理解する」ことが困難だというのはおもしろい。だが、意味を理解できないままAIの進化が進めば、今後、さまざまな問題も出てくる。

たとえば、コンピューター制御^{せいぎ}で動く兵器ロボットは「実現は時間の問題」と言われている。兵器ロボットは人的・軍事的コストをカットできる、非常に効率的な兵器だ。しかし、「人を殺す」ときに生じる心の葛藤^{かつとう}を理解できないロボットに人を殺すということを見せていいのだろうか。この葛藤が悲劇^{ひじつ}に少しだけ歯止めをかけてくれるのだ。また、「人違い」の殺人があつても、ロボットでは責任は問えない。おそろしいことだ。

AIは、大量の情報を効率的に処理し、最適化する。技術が進めば進むほど、これからの世のなかは、効率が【B】されるようになっていくだろう。だが、「意味を理解できない」AIが導き出す「最適」な答えが、人間が求めるものと同じとは限らない。

極端な話、「地球環境を守るためにはどうすればいいか」という課題を与えられたら、AIは「人間がいなくなる」とためらいなく答えるのではないだろうか。人間こそが、環境に負荷を与える最大の原因なのだから、AIは「そんな人間に価値はない」と判断すると思う。

⑤

いいことも悪いこともする、どうしようもない失敗もしてしまう、それが人間という厄介なイキモノだ。AIよりずっと効率が悪い。

それでも、覚えた「正解」以外の「別解」をいくつも見つけ出せるのは人間の強みである。人間が生きていくなかでは、**2**に解決できないことがいくらかもある。そんなとき、自由な発想でどうハードルを飛び越えるか、そこに人間の値打ちが出てくるのではないだろうか。

一見、成功した人ほど値打ちが上がるように思えるが、失敗を繰り返すプロセスがなければ成功は生まれない。と言うことは、失敗が多いことが値打ちにつながることもあるわけだ。

人間は大昔から失敗をするイキモノだった。約三―八万年前にエチオピアにいたアウストラロピテクスの「ルーシー」^{注3}に逢い^あいって^あきた。エチオピア国立博物館だ。猿人なのに木から落ちていた可能性があるという。ルーシーの化石をCTで調べると、^{注4}右上腕骨が骨折しており、「落下して地面にぶつかったときに、衝撃を弱めようと腕を出して起こる圧迫骨折」の跡ではないかと推測^{すいそく}されている。

そうであれば、人間の値打ちは失敗から始まっている、ということになる。^a木から落ちる失敗こそ、ホモ・サピエンスを生み

出す幕開けだったのだ。

「ルーシー」が木から落ちてしまったのは、直立二足歩行をするようになったアウストラロピテクスが地上で生活することが増え、旧猿人の時代よりも木登りの能力が退化したからではないか。足の親指の位置は、サルからヒトへの進化の途上で徐々に変わっていった。サルの足の指は手と同じように枝をしっかりとつかめる機能を持つが、すべての指が同じ方向を向くヒトの足の指では枝をつかむことができない。サルであれば手のように器用な能力があった足を、人類の祖先はあえて退化させ、その代わりに直立二足歩行をすることで両手の機能を高めた。^⑥「木から落ちる」という失敗で別の道を見出していったのだ。

ストックで人間の値打ちが変わり始めた

また、すべての指が同じ方向を向くことは悪いことばかりではなかった。地面をグリップして速く走れるようになったのだ。人間は弱いイキモノである。アフリカのサバンナで速く走って逃げる能力を身につけることは、きっと生き抜くために大切だったはずだ。逃げるというのも、人間の値打ちに影響している。ときには逃げながら生き延びるという選択があることも、僕たちは忘れないようにしたい。

原始時代、空いた両手を使って、人類の祖先は道具を使い出し、狩りをし、火を用いるなど肉を効率的に食べる方法を編み出して、脳を発達させていった。手を使って食べ物を運び、貯えた。人類の祖先が始めたストックは格差を生んでいく。

やがて彼らは大いなる好奇心を持ってアフリカを出て、世界中に広がるグレートジャーニーの旅を始める。そして家族をつくり、コミュニティで助けあいながら、進化を続けてきた。

だが今、人間は進化の旅の途上で途方に暮れているように見える。行き過ぎた強欲な資本主義のなかで、自分さえ良ければいい、勝ち組になればいい、というやり方が幅をきかせている。格差社会は、そうした **3** な追求が行き詰まり、壁にぶち当たっていることの表れだ。

⑦ 人間の価値が見えにくい時代だからこそ、人間クササの「C」が大事。AIに「いらぬ」と言われてしまうような人間

のどこに価値があるのか、この本のなかで人間の値打ちを見つめ直しながら、考えていきたいと思う。

(鎌田實『人間の値打ち』〈集英社新書〉より)

注1・ファンド……多くの人からお金を集めて投資を行う仕組み。

注2・プロジェクト……新しいことをするための計画。

注3・アウストラロピテクス……四百万年前からいたとされる初期の人類。

注4・CT……レントゲンと同じように体内の状態を調べることができる装置。

注5・グレートジャーニー……人類がアフリカ大陸を出て世界中に広がっていったこと。

問一

1

3

もの使えない。

ア、合理的

イ、象徴的しょうちゆうてき

ウ、利己的

エ、驚異的きょういいてき

1と3に入ることをばとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じ

問二

I 「途方に暮れて」

……線部I・IIの本文における意味として適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア、うまい方法がみつからなくなって

イ、時間だけがどんどん過ぎてしまつて

ウ、先のこと予想できなくなつて

エ、どうしたら良いかわからなくなつて

Ⅱ「幅をきかせて」

ア、大半を占めて

イ、影響を与えて

ウ、注目を集めて

エ、評価を受けて

問三

【A】～【C】に入る二字のことは次の漢字を組み合わせそれぞれ作りなさい。

興 散 視 消 貴 放 重 復 解

問四

~~~~線部aの内容をあらわすことわざとして適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、犬も歩けば棒に当たる

イ、猿も木から落ちる

ウ、けがの功名

エ、果報は寝て待て

問五

本文には次の一文がぬけている。どこに入れたらよいか、この直後にくる六字をぬき出しなさい。

僕は勝手に、これが資本主義の始まりだと考えている。

問六 — 線部①「そんな時代」とはどのような時代か。適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、AIの研究に多額のお金が使われ、人間の能力を超えるAIが作られてしまった時代。
- 2、一〇兆円のファンドが個人によって立ち上げられ、AIの開発競争が起きている時代。
- 3、人間には絶対に勝てないとされた将棋や囲碁などのゲームで、AIが人間に勝つ時代。
- 4、人間を超えるAIが作られ、人間の値打ちがどこにあるか考えなければいけない時代。

問七 — 線部②「教育という『人間を育てる』場所にも、インターネットがどんどん進出している」とあるが、インターネットやコンピューターを使うことの利点として適切でないものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、わざわざ学校に通う必要がなく、勉強する場所を問わないこと。
- 2、一流の授業が、従来の学校教育より安く受けられること。
- 3、生徒の学習レベルに合わせた勉強をさせることで、学力が向上したこと。
- 4、教員を採用する必要がなく、生徒自身で効率よく勉強できること。

問八 — 線部③「今のところAIは東大に入れない」とあるが、それはなぜか。その理由を東大ロボの苦手分野をふまえて

三十字以内で答えなさい。

問九 — 線部④「悲劇に少しだけ歯止めをかけてくれる」とはどういうことか。その説明として適切なものを次の中から一つ

選び、番号で答えなさい。

- 1、兵器ロボットには責任を問えないと分かっているので、人はロボットを使用しなくなるということ。
- 2、人は効率だけを第一とする兵器ロボットと異なり、人の命をうばうことをためらうということ。
- 3、兵器ロボットの開発のスピードが上がること、人が求める答えに近づけるということ。
- 4、人が兵器ロボットを効率的に利用することで、戦争をやめさせることができるということ。

問十

⑤

に入る小見出しとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、「人間」という厄介なイキモノ
- 2、「別解」をいくつも見つけ出せるのは人間の強み
- 3、「自由な発想」でどうハードルを飛び越えるか
- 4、「人間の値打ち」は失敗から始まっている

問十一

— 線部⑥『木から落ちる』という失敗で別の道を見出していったのだ」とあるが、別の道とは何か。文中から十字でぬき出しなさい。

問十二

— 線部⑦「人間の価値」とあるが、その説明として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、多額のお金を投資し、AIを開発するなどの技術発展に貢献こうけんすることができること。
- 2、資本主義社会の中にあっても、自己の利益を優先しない生き方ができること。
- 3、失敗をしても次に生かすことができ、正解以外の答えを考えることができること。
- 4、失敗を繰り返しても、AIをうまく使って問題を解決することができること。

問十三

本文の内容と合っているものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、さまざまな職種でAIが人に取って代わると言われているが、人の気持ち理解できないAIは接客には向いていない。
- 2、インターネットを利用したオンライン授業が充実していく中で、教室で行われる対面授業の重要性が強く主張されている。
- 3、AIの存在が人間を超えていく情報化社会の中で、AIを使いこなす能力の高低が社会の格差を広げる要因になった。
- 4、AIは大量の情報を処理して効率的な答えを見つけることができるが、人間の出す答えとは必ずしも同じにならない。

